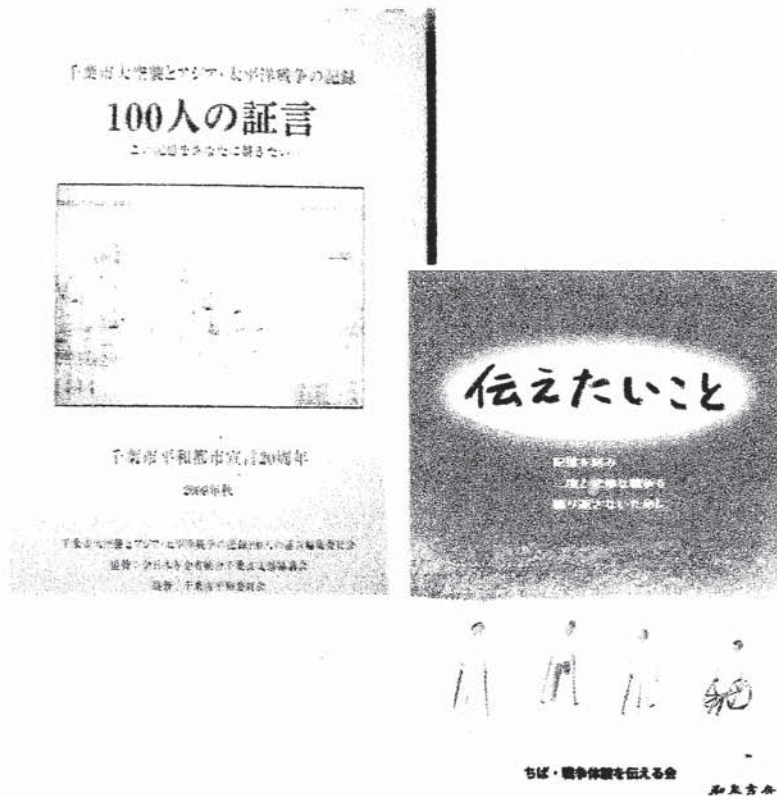


7.7 千葉市空襲 66 周年ー 戦争を繰り返さないための集い 2011

2011 年 7 月 7 日

千葉市文化センター9 階会議室



共催

千葉市空襲と戦争を語る会

ちば・戦争体験を伝える会

主催者挨拶 千葉市空襲と戦争を語る会 代表 白井進

私は幼稚園に入るため市原から千葉市に移住してから75年間千葉市に住んでいます。千葉市は私にとっては故郷です。終戦の時は15歳でした。戦前の懐かしい千乗市街の隅々まで、私の脳裡に刻まれています。その懐かしい千葉市街が終戦の年、1945年7月7日の七夕空襲で全滅しました。今の東千葉駅（当時の千葉駅）から県庁まで一軒も残りませんでした。私の中学校（現在の千葉高校）の同級生の多くは家が焼かれ、家族を失いました。バラックや防空壕から通学してくる級友が沢山いました。

2009年11月に発刊した「千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録100人の証言」の編集を呼びかけられた時、千葉が故郷の私にとっては生涯の重要な任務としても、すべきと思い即時応じました。戦争を語る会の母体はこの編集委員6人（中村敏夫、白井進、堤信一、千葉道子、伊藤章夫、関康治）です。発刊後多くの新聞記事発表の影響もあり、千葉市他の自治体、団体、図書館、学校、一般個人などの反響も大きく、証言者の協力も得て、他の多くの市で実施した空襲犠牲者の名簿作成・追悼の碑建立を目指す運動に発展させることを願い、編集委員会の発展的運動として、証言者や趣旨に賛同する人の協力も得て、この会を結成しました。この運動は本来千葉市がすべきことですが、千乗市の協力も得て成功させたいと思っています。

今、東日本大震災を期に非常事態法立法の動き、国会における憲法9条削除の動き、千葉県における先の戦争を美化する「新しい歴史教科書」の普及推進の動きなど反動化の情勢下、7月7日の集会の意義は大きく、みなさんのご協力でぜひ成功させ更に大きな運動の出発点となることを祈願しております。

主催者挨拶 ちば・戦争体験を伝える会 代表 市川まり子

先の戦争で国内外に数多くの犠牲者を生み出し、原爆や空襲によって全国の都市が焼け野原となったところから、「二度と繰り返しません」と日本国憲法の下、再出発して66年。この間、世界各地で戦争・紛争は絶えることなく、国内には多数の米軍基地があり、インド洋へイラクへと自衛隊は派遣され、日本も決して戦争と無関係ではありませんでした。

今から6年ほど前、過去の戦争の記憶が薄れ、新たな戦争に備えるかのような法整備等が着々と進められる中、少なくなった戦争体験者の皆さんからの、「同じようなことを二度と繰り返さないために、実際の体験を子どもや若い世代に伝えていきたい」という熱い思いを受けて、この会はスタートしました。

体験を聴かせてくださいと開いた1回目の集いから、「今話さなければ」と駆けつけてくださった方もあり、親子の集まりなどで体験談をしていただく中で、いつの間にか紙芝居づくりが始まりました。千葉空襲を中心に体験者自身が絵も文も書いた作品や体験談をもとに制作した作品等、10作品が完成。昨年10月には、紙芝居や手記・絵・図等を収録した本「伝えたいこと—記憶を刻み 二度と悲惨な戦争を繰り返さないために」(和泉書房)を刊行しました。その大きなテーマとして、「なぜ国民が一つになって戦争を遂行したか」ということがあります。言論統制、報道管制、そして「教育」の問題です。

国際社会では通用しない過去の歴史を美化した自分の国に都合のいい歴史認識を若い世代に持たせることは、若者自身のだけでなく、この国の進路を間違った方向へ導くものと考えます。また、大震災の後、被災地への支援の輪を広げ被災者を励ます言葉として流された「日本は一つ」「日本は強い」から「挙国一致」へ、更に「非常事態での個人や自治体の権利を制限する為の憲法改正」が動きとなって表れて来ている現在、強い危機感を抱いています。

プログラム

1部

- 14:00 開会 司会者挨拶 (千葉通子)
- 14:04 空襲犠牲者と東日本震災犠牲者追悼の黙とう
- 14:05 主催者挨拶 千葉市空襲と戦争を語る会代表 白井進
ちば・戦争体験を伝える会代表 市川まり子
- 来賓挨拶：市民総務課 様
- 14:25 千葉空襲体験話：堤信一さん
千葉空襲体験話：鶴本富士子さん
千葉空襲体験話：山中明さん
千葉空襲体験話：中村敏夫さん
東京空襲体験話：古家幾久江さん
- 15:15 紙芝居上演「遺言 - 再び繰り返さないために」・紙芝居紹介
- 15:35 休憩 (15分)

2部

- 15:50 千葉空襲犠牲者名簿運動紹介 (伊藤章夫)
全国空襲被害者連絡協議会の運動アピール (河合節子)
青年学生の話：
- 16:15 みんなで歌いましょう！
- 16:25 閉会挨拶 (伊藤章夫)
- 17:30 懇親会

◎ **第2日目=8月21日(日)** (9時00分～11時45分)

＜第二部＞ 1. 九州からの活動報告 2名= 鹿児島県、大分県

2. 九州以外の各地・各団体からの活動報告

● **戦跡見学フィールドワーク** (13時00分～17時30分)

大牟田市内の高射砲陣地跡などの戦跡、大牟田空襲展(略称)、荒尾「二造」戦時遺構などを、バスで見学致します。◎申し込み先着順、50名で締め切ります。

4. **参加費：振替払込み締め切りは7月20日(水)です。！！**

◎大会：2000円(1日のみ参加は1000円)

◎懇親交流会：6000円

◎戦跡見学フィールドワーク：2000円(弁当・お茶付き)

5. **宿泊ホテル**：開催地事務局としては準備致しませんが、下記のホテルがあります。

○オームタガーデンホテル：(電話)0944-51-1111 (FAX)0944-54-4473
〒836-0807 大牟田市旭町3-3-3

○グランドホテル清風荘：(電話)0944-56-1212 (FAX)0944-51-5963
〒836-0862 大牟田市原山町2-4

＜ホテル・旅館の予約＞ →じゃらん・Yahoo!トラベルなどで探して予約できます。

6. **申し込み(参加、活動報告の発表など)：締め切りは6月30日(木)です。！！**

(1) **大会、懇親交流会、戦跡見学フィールドワーク**

◎申し込み方法：別紙の参加申し込み書に必要事項を記入されて、郵送またはFAXで事務局へお送りください。

◎参加費などは同封の郵便「振替払込書」でお振り込みください。

＜送付先＞ 中嶋光秋(なかしま みつあき)=(大会事務局)

〒837-0904 大牟田市大字吉野876-5

(電話・FAX)0944-58-3018 (ケイタイ)090-2990-6701

＜郵便振替＞ 口座番号 01790-5-70665

口座名称 「全国連絡会議大牟田大会実行委員会」

(2) **オプションツアー：8月22日(月)、「世界遺産候補 三池炭鉱の近代化遺産を訪ねるツアー」**。案内状を同封しています。参加費：4000円。

7. **米軍資料研究会**

＜日時＞ 1日目：8月19日(金)18時00分～21時00分

2日目：8月20日(土)9時00分～11時45分

＜会場＞ 大牟田市労働福祉会館研修室

＜参加申し込み＞

氏名・住所・電話番号を明記の上、下記に6月30日(木)までに直接申し込みください。また、報告発表を希望される方は、その題名、内容も工藤洋三様にお伝えください。

＜資料代金＞ 1000円(当日払い) * 郵便局で振り込まないで下さい。

＜申し込み先＞

〒745-0121 周南市須々万奥286-3 工藤洋三

FAX 0834-88-2776 e-mail ykudo@bronze.ocn.ne.jp

● 近くの駐車場は、大会会場の大牟田市労働福祉会館駐車場(45台収容、無料)と大牟田市役所立体駐車場(150台収容、有料)の2箇所のみです。大会当日は他団体等の行事も開催されますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

◎ 添付：①振替用紙 ②申込書 ③オプションツアー案内 ④大牟田空襲展案内